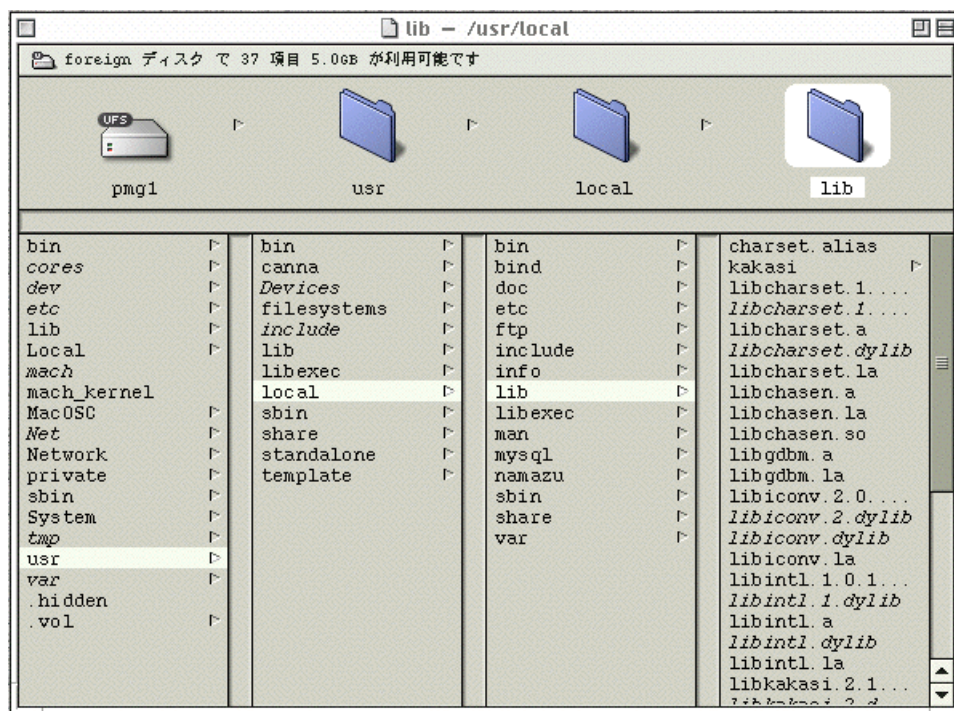


森下克徳の崖っぷちから WebObjects》第 22 回 ～MySQL でコミュニティサイトを作る v6/MySQL の インストール

さて、さっそくインストールに取りかかろう。アップルが提供している MySQL のパッケージもそうだが、普通に素直にインストールすると、Finder からは見えない、/usr 以下の領域にインストールされる。本格運用時にはそうするとしても、Mac な身には、まだよくわかってないものを、Terminal.app だけであやつらなくてはならない状況はちょっとつらい。実は、Mac OS X Server 1.2 までは、システムの領域も Finder（というか、当時は WorkspaceManager と言ったが）上でぱかぱかクリックして開いて行けたので、MySQL がそのような領域に入ったとしても、GUI 上で見えていた（図 1）。今から考えると、だからこそ最初の一步が踏み出しやすかったようにも思う。

図 1



そこで今回は、自分のホームスペースにインストールしてしまう方法をお教えしよう。こうすれば、各種ファイルがどのように配置されているのか、Mac 的に見られると言う寸法だ。

まず、自分のホームディレクトリに、MySQL をインストールするフォルダ「MySQL」を作っておこう（図 2）。図にある「src」というフォルダは、Internet Explorer の環境設

定でダウンロードフォルダとして指定したもので、MySQL のソースもここにダウンロードされている。この場所は環境設定を触っていなかったらデスクトップにそのまま展開されているだろうし、他に設定していればその場所で、つまり人それぞれのはずだ。なので、各自でそのあたりは読み替えてほしい。

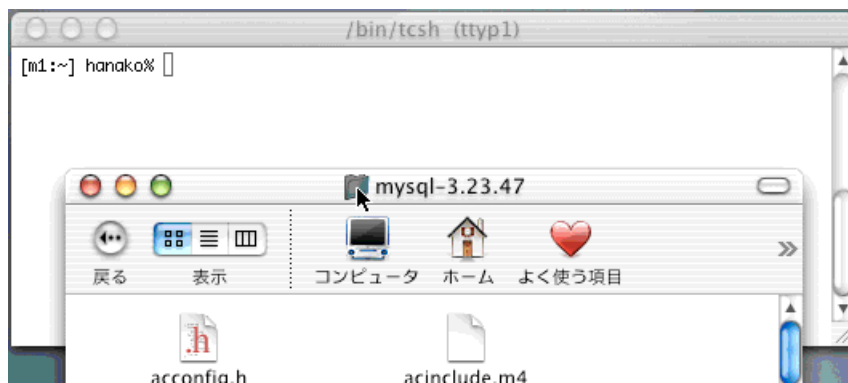
図 2



「src」フォルダの中にある「mysql-3.23.47.tar.gz」を StuffItExpander に展開させると、「mysql-3.23.47」というフォルダができる。（なお余談であるが、InternetExplorer には、StuffItExpander を利用したセキュリティホールが見ついている。この脆弱制を利用した悪意ある Web サイトを開くと、自動解凍後、自動マウントされたイメージディスクにある任意のコードをローカルで実行されてしまうと言うものだ。InternetExplorer でダウンロードしたものを、StuffITExpander に渡さないように設定しておいた方がよいだろう。）

ここからはどうしても Terminal.app を利用しなくてはならない。ただし MacOSX の Terminal は GUI と関係してくれるので、この手を使わない手はない（図3）。図のようにアイコンを Terminal のウィンドウにドラッグ&ドロップすると、カーソル位置に自動的にそのアイコンのパスを書き込んでくれるのだ。図ではウィンドウのタイトルバーからドラッグしているが、普通のアイコンでかまわない。

図 3



では、Terminal のウィンドウをアクティブにして、最初に「cd」と打ち込んでスペースをあけよう。そして、Finder 上で「mysql-3.23.47」フォルダを選択し、Terminal のウィンドウに落としてみよう。パスが入ったのを確認したら、Terminal をアクティブにしてリターンキーを押す。すると次の行に進んで「mysql-3.23.47」フォルダの中に入っている。

まず最初は、様々なシステムに対して広くソフトウェアのコンパイルができるように考えられた autoconf というシステムを利用する事になる。つまり、UNIX といっても千差万別で様々なシステム依存の部分があるので、すべてのためにコンパイルの仕様書である Makefile を用意するわけには行かない。この差異を調整して適切な Makefile をその都度作ってしまおうというのが、autoconf である。またこの時には、ソフトウェアの様々な所作を指定したり、インストール先を指定したりする。

今回はここでこのように打ち込む。

```
./configure --prefix=
```

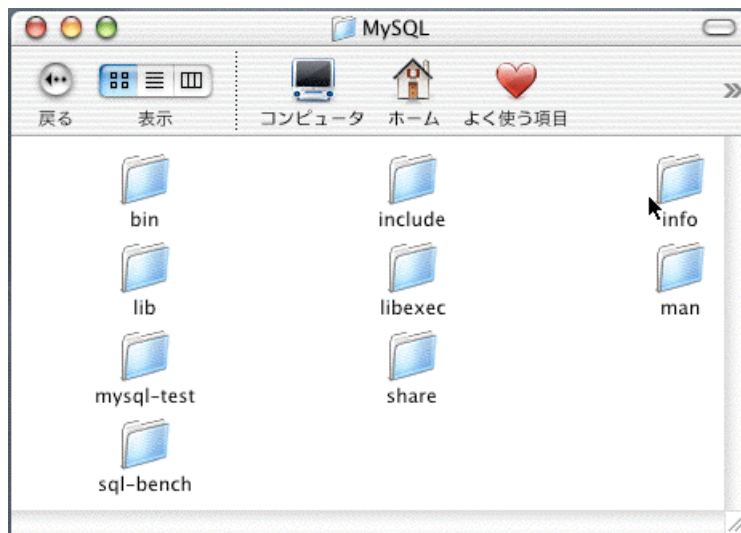
そしてスペースを一つ空けた後、先ほどの技を使ってホームディレクトリに用意した「MySQL」フォルダを放り込む。続けて、日本語での動作を指定する。横に長くなるようなら、そのまえに¥（バックslash）を打ち込んで改行すれば、次の行に続ける事ができるので活用しよう。基本的に日本語を EUC で扱うのなら「--with-charset=ujis」Shift-JIS なら「--with-charset=sjis」とする。ここでは EUC で扱う事を前提にしておく。さらに、起動時の指定によっては別の言語も使えるように、「--with-extra-charsets=all」をつけておこう。また、今回は自分のホーム内にインストールするので、「--with-mysqld-user=hanako」とつける。ただし、この例ではユーザ hanako が行っているの

user=hanako なのだが、現実には各自それぞれのユーザ名を入れよう。

次に改行すると文字がずらずら流れて行って、いろいろ調べながら Makefile を用意してくれる。これはちょっと時間がかかるかも知れない。これが終了したら、次に make と打ち込みリターン。ここからがコンパイルである。先ほどの./configure の何倍も時間がかかるので、ゆっくりコーヒーでも飲みながら待つとしよう。

コンパイルがうまく行けば、最後に Welcome メッセージが Terminal 上にあらわれる。ここまで来ればもう問題はない。ホームディレクトリの中にインストールするので sudo する必要もなく、単に make install リターンとすればインストールが完了だ。それでは、最初にインストール用に用意した「MySQL」フォルダを Finder 上で開いてみよう（図 4）。ちゃんとインストールされているのがわかるだろう。

図 4



それでは次回は、インストール作業に伴う最初の設定を行おう。

★今日打ったコマンドのまとめ

```
% cd /Users/hanako/mysql-3.23.47
% ./configure --prefix=/Users/hanako/MySQL ¥
    --with-charset=ujis --with-extra-charsets=all ¥
    --with-mysqld-user=hanako
% make
```

% make install

[森下克徳]